



料金後納

ゆうメール

ナーク便り



2024年度 下期号

- [TOPIC1. NERC 30周年記念パネル展の開催]・・・P1
- [TOPIC2. 通報システムの利用用途の拡大]・・・P2～3
- [TOPIC3. 土木の日「土木おもしろ体験隊」出展報告～ミニドローン飛行体験]・・・P4

TOPIC 1 NERC 30周年記念パネル展の開催

令和6年10月からNERC本館1階ホールで30周年記念パネル展として「西海橋」の工事写真を展示しています。下記期間はミライon図書館へ出張展示します。

設立30年記念 長崎県の長大橋梁写真展開催について

NERCは良質な社会資本の整備と維持管理への支援を通じて本県建設事業の振興発展に寄与することを目的に1994年に設立され今年30年になります。この間、県内唯一の建設系公益法人として「社会資本整備支援事業」「社会資本維持管理支援事業」「研修事業」「試験調査事業」「研究開発事業」等を行ってきました。

「社会資本維持管理支援事業」のうち長崎県橋梁点検業務は、県が管理する橋梁の点検を支援する業務ですが、特に「西海橋」「平戸大橋」「生月大橋」「若松大橋」「大島大橋」「鷹島肥前大橋」「伊王島大橋」などの長大橋梁は重点管理橋梁として、毎年NERCの職員が点検、結果整理、登録等を行っています。

また長崎県橋梁維持管理システムの管理、登録も行っており、前述の長大橋梁の工事図書の整理登録等も実施してきました。この中には、建設工事の記録ビデオや貴重な図面、写真等も含まれています。

NERC設立30周年の記念として、長大橋梁建設時の貴重な資料を展示し、今後の本県建設事業を担う人々に長大橋梁建設はもちろん、維持管理に興味をもってほしいとの思いから写真展を開催することとしました。

第一弾は、来年建設70年となる「西海橋」です。70年前の写真はもちろん白黒です。白黒の写真も年代を感じられ良いのですが、今回はAIを利用してカラー化してみました。現実の色とは違う部分もありますが、AIの現状として楽しんでください。

今後、順次、平戸大橋、大島大橋、鷹島肥前大橋などの写真展開催を予定していますので、ご期待ください。

NERCが長大橋梁の維持管理などを通じ、本県建設事業の発展に貢献していくことを祈念して、NERC設立30周年記念「長崎県の長大橋梁写真展」開催のあいさつといたします。

令和6年10月
理事長 有吉 正敏

西海橋

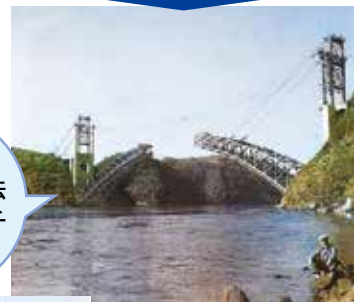
期間：令和7年2月18日(火)
～3月2日(日)
場所：ミライon図書館 1階ギャラリー



展示の一部を紹介합니다!

西海橋ができるまで

ケーブル
クレーン工法
によるアーチ
の架設



トロッコ
から直接床版へ
コンクリートを
打設



アーチ
クラウン架設
(記念写真)



AI利用による白黒写真のカラー化



ホームページ
QRコード

ホームページ
<https://www.nerc.or.jp>

X
@NERC1657



X
QRコード



(公財)長崎県建設技術研究センター

Nagasaki civil Engineering Research Center
略称はナーク(NERC)です

〒856-0026
長崎県大村市池田二丁目1311番3
TEL:0957(54)1600 FAX:0957(54)1505

通報システムの利用用途の拡大

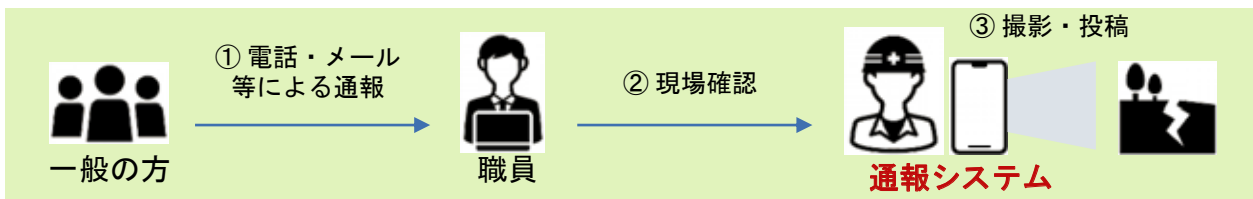
通報システムは、当センターで運営し、県市町に対し共同利用を行っているシステムです。

主に道路や各種施設の通報を管理するシステムですが、現場で写真を撮るだけで位置情報とともに写真が記録されるシンプルな仕組みのため、通報の管理以外にも様々な用途で利用されています。

通報システム実績

現在通報システムは、県(本庁および各振興局)と8市町で利用されており、年間で約38,000件の投稿(通報以外の用途も含む)が行われています。

通報システムの基本的な使い方



現場確認時に「通報システム」を起動、写真撮影するだけで「写真」と「位置情報」をシステムへ登録できます。

また、投稿時に投稿種別やカテゴリ(※ページ下部を参照)を設定することで、検索や絞り込みが簡単にできるようになります。

通報システム画面

【概要入力画面】

写真を撮影し

状況を入力して投稿
(GPSにより位置情報は自動設定)

【管理画面】

投稿された情報は一覧で管理

または地図で管理

利用可能な投稿種別

- ・ 通報
- ・ 点検
- ・ 自治会要望
- ・ 災害報告
- ・ 議員要望
- ・ 通学路点検
- ・ 原因者事故
- ・ 急傾斜要望
- ・ 不法占用
- ほか

利用可能なカテゴリ

- ・ 道路 → 法面、舗装、側溝、擁壁、カーブミラー、街路樹 …
- ・ 河川 → 護岸、伐採、浚渫、ダム、水質汚濁 …
- ・ 公園 → 舗装、側溝、遊具、トイレ、街路灯、伐採 …
- ・ 砂防 → 砂防、急傾斜、地すべり、その他 …
- ・ 港湾 → 水域施設、係留施設、外郭施設、臨港交通施設 …
- ほか

通報以外のシステム利用用途の紹介



・簡易台帳として利用

管理者不明橋梁の調査の際に利用された例です。川沿いに移動しながら通報システムで橋梁の写真を撮るだけで、簡易的な台帳が作成できます。(コメント欄に河川名を入れておくことで、絞り込み検索もできます)

・自治会要望の受付

図は自治会からの手摺設置要望が投稿された例です。

(自治会には投稿専用のユーザIDを配布)

撮った写真にフリーハンドで記入できる機能を使って、手摺設置イメージを書き込んでいるため、要望の内容がわかりやすくなっています。



・工事の現場報告

工事の受注業者が、通報システムを使って現場報告を行っている例です。(受注業者には投稿専用のユーザIDを配布) 行った作業の一覧と、写真を数枚添付して定期的に現場の状況を投稿しています。

・被災状況の報告

各振興局で毎年行われている大規模災害訓練でも通報システムの利用が始まっています。通報システムを使って被災現場を報告することにより、迅速で正確な被災状況の把握が可能になります。



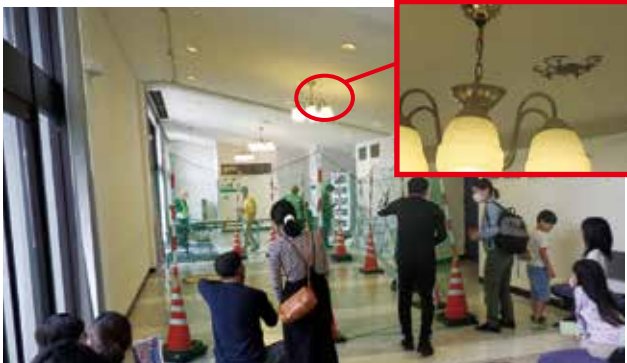
記事の内容についてご不明な点、通報システムに関する詳細は以下まで

建設企画課 DX推進班 電話: 0957-54-1657

Mail: nerc_sys@nerc.or.jp

TOPIC3 土木の日「土木おもしろ体験隊」出展報告 ～ミニドローン飛行体験～

令和6年11月16日(土)に長崎大学文教キャンパスで開催された「土木おもしろ体験隊」で、ナークは、令和元年度から実施している「ミニドローン飛行体験」を開催。当日は事前応募をした約30組70人の親子が、中部講堂ロビー（ホワイエ）で、ナーク職員の指導のもと、ミニドローンの飛行を体験しました。



👉 ミニドローン飛行体験

ナークのドローン研修で、講師の資格を持つ職員が、ドローンの操縦についてマンツーマンで指導しました。ミニドローンを天井ギリギリの高さまで飛ばしたり、空中で前転、バック転、側転するたびに、子供たちも喜んでいました。

また、保護者の方が、お子様がドローンを操縦する様子を、スマートフォンで撮影したりと、親子のほほえましい様子が見られました。

飛行体験後は簡単なアンケートにも答えてもらいましたので、集計結果と感想の一部を紹介いたします。
(回答者数38人、設問数2問、うちQ1は複数回答)

Q1. ミニドローンを操作してみて、どうでしたか？

1 楽しかった	33人
2 おもしろかった	24人
3 操作は簡単だった	14人
4 ドローンパイロットになりたい	5人
5 また、ミニドローン体験をしてみたい	26人

Q2. ドローンについて、感じたことを自由に書いて下さい。

- ・ドローンを飛ばすといろいろなものがその場所に行かなくても撮影することができると思いました。
- ・ミニドローンを操作するのは、難しかったけど、楽しかった。
- ・写真がきれいにとれていてびっくりした。
- ・向きを変えると操作する向きが変わるのが難しかった。
- ・思ったよりはやかった。
- ・またしたいです。たのしかった。

また、今年は、「道守養成ユニットの会」*からも4名参加し、会場設営や受付対応をしたり、土木工事の現場写真、空撮用ドローン、軍艦島の建築物の模型などを展示しました。

*道守養成ユニットの会：長崎大学大学院工学研究科インフラ長寿命化センターが実施する道路インフラの維持管理技術者育成講座である『道守(みちもり)養成講座』で学んだプロの技術者集団。道を守る(メンテナンス)活動をボランティアで行っており、メンバーは、主に長崎県内の建設従事者・官民土木系技術者で、長崎県内の8地域(長崎、佐世保、県央、島原、下五島、上五島、杵岐、対馬)と県外を合わせた9つの地域で、道路や橋の点検活動を行っている。



👉 道守養成ユニットの会の展示

軍艦島の建築物の模型や土木工事の現場写真を用いて、来場者に建設業の魅力について発信していました。

本年度は、道守養成ユニットの会が参加したことで、例年より充実した出展内容となりました。これを機会に多くの県民の方々に、土木について興味を持ってもらえたら幸いです。